公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース
Hem21 NEWS

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Institutuの略称です。

令和3年（2021） 11月 Vol.90

CONTENTS

❶〜❷ 令和3(2021)年度兵庫自治学会研究発表大会を開催
❷ 兵庫自治学会令和3(2021)年度第1回オンラインセミナーを開催
❸ 南海トラフ地震に備える政策研究
❹ 情報ひろば
❺ HAT神戸掲示板
❻〜❽ 人と防災未来センターMiRAi

令和3(2021)年度兵庫自治学会研究発表大会を開催

10月2日、「ポストコロナの新時代〜持続可能な地域づくりに向けて〜」をテーマとした令和3(2021)年度兵庫自治学会研究発表大会をオンラインにより開催しました。午前は全体会、午後は4つの分科会に分かれ会員等による研究発表があり、YouTubeで発信したところ計約300回再生されました。

■全体会（基調講演）

午前中の全体会（基調講演）では、広井良典・京都大学こころの未来研究センター副センター長・教授から、「ポストコロナ・人口減少社会のデザイン」と題して、今後の社会の展望について語っていただきました。

広井副センター長は、新型コロナウイルスのパンデミックや気候変動の深刻化は、過度の都市集中や自然の搾取・破壊などによる人間と生態系の間のバランスの崩れに起因しているのではないかと指摘されました。そして、日本は平成20(2008)年をピークに本格的な人口減少社会に急激に移行しており、そこでは人口増加期・高度成長期の延長線上とは逆の流れや志向が生じるとされました。最近の若い世代にはローカル志向があり、そうした方向を支援する政策が必要であるとも主張されました。

そして、AIを活用して日本の未来をシミュレーションし、その結果を基に持続可能な社会づくりに向けた政策提言をされました。その中で都市集中シナリオと地方分散シナリオを比較し、持続可能性の観点からより望ましい地方分散シナリオを実現するためには、①労働生産性から資源生産性への転換を促す環境課税②再生可能エネルギーの活性化③地域コミュニティを支える文化や倫理の伝承④住民・地域社会の資産形成を促す社会保障などの政策が有効と話されました。持続可能な地方分散シナリオの実現のためには、地域内の経済循環を高める政策が必要とも指摘されました。また、AIを活用した兵庫県の未来予測を基に、オンラインやテレワークなどのデジタル化や分散型（再生可能）エネルギー、高齢化に伴う医療・福祉分野の広がりや農業の新たな価値の創出など経済構造を分散型にすることも重要であると指摘されました。

今後のまちづくりに関しては、高齢化に対応して福祉政策とまちづくり・都市政策をつないで、ヨーロッパなどの街に見られるような、中心部から自動車を排除して高齢者等がゆっくりと過ごせるような場所をつくることを提案されました。また、コミュニティ空間という視点を重視した歩行者中心の街を実現していくべきとされ、そうした観点から姫路駅前の歩行者と公共交通のみの「トランジットモール」を高く評価されました。

今後はポスト情報化の「生命」の時代になり、そこでは健康・医療、環境、生活・福祉、農業、文化など「生命」関連産業の重要性が高まるということも指摘されました。日本は人口減少・超高齢社会のフロントランナーとして多くの課題を抱える一方、元来分散的で地域の多様性の豊かな社会が形成されてきました。そうしたことを考えると、ローカルから出発しつつ、環境・福祉・経済が調和した「持続可能な福祉社会」のモデルを先導的に実現・発信していくポジションにあると言えるのではないかと結ばれました。

■分科会

午後からは「地域振興・健康福祉」、「産業・農業振興」、「教育・地域連携」、「行政運営」の4つの分科会に分かれ、18人の会員等（グループを含む。）が日頃の研究成果をオンラインで発表して議論が交わされました。分科会では、学識者がコーディネーター、行政幹部職員がアドバイザーを務め、研究活動を深めるためのアドバイスを行うとともに、テーマに沿った問題提起を行いました。

行政職員のほか、地域で活動を続けている方、大学生などからも多くの発表があり、地域課題や行政政策への関心の高さと広がりが感じられました。今後の発表者・参加者の主体的な政策形成活動につながるものと期待されます。

分科会・テーマ	学識コーディネーター	行政アドバイザー
第1分科会：地域振興・健康福祉	成清 美治 （神戸親和女子大学客員教授）	生安 衛 （兵庫県健康福祉部社会福祉局長）
第2分科会：産業・農業振興	山下 紗矢佳 （武庫川女子大学経営学部講師）	廣瀬 一雄 （兵庫県産業労働部政策労働局長）
第3分科会：教育・地域連携	石田 潤 （兵庫県立大学国際商経学部特任教授）	井筒 信太郎 （兵庫県企画県民部人事課長）
第4分科会：行政運営	畑 正夫 （兵庫県立大学地域創造機構教授）	城谷 美也子 （兵庫県企画県民部ビジョン局長）

優秀発表者等一覧（後日、優秀発表者等が選考されました。）

【優秀発表者】

分科会	発表者	テーマ
第2分科会 産業・農業振興	兵庫県立農林水産技術総合センター酒米試験地 池上 勝	温暖化に対する酒米の栽培技術と新品種の開発
第4分科会 行政運営	追手門学院大学地域創造学部地域創造学科藤原ゼミ 清水 龍、野間須 亘、安積 紗菜	大学生の就業による人口流出

【特別賞受賞者】

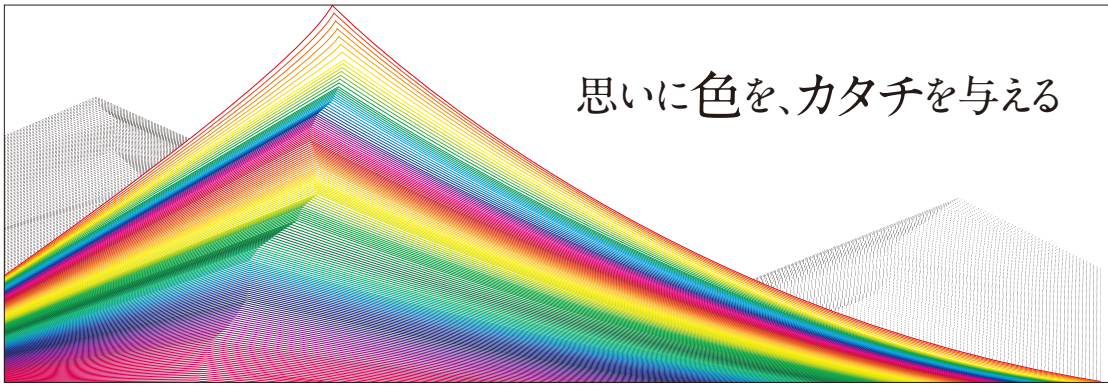
分科会	発表者	テーマ
第1分科会 地域振興・健康福祉	神戸シルバー大学院（第14期生）、いばしょ 上田 尚男	日本の子どもの貧困に関する研究
第3分科会 教育・地域連携	兵庫県立大学環境人間学部太田ゼミ 大西 飛勇吾、岡田 ほのか、壽賀 菜々葉、中島 勇風、村田 萌々香	コロナ禍における一人暮らし大学生の住環境の現状と課題 －姫路市内の大学生協オリジナルマンションを事例として－
第4分科会 行政運営	関西学院大学経済学部上村ゼミ13期生 自治体AI研究チーム 瀧 虎ノ介、吉野 蒼汰、増家 圭、本田 凌一他	兵庫県内市町におけるAIの現状と導入に向けた施策のあり方

兵庫自治学会令和3（2021）年度第1回オンラインセミナーを開催

兵庫自治学会では、9月10日（金）にオンラインによるセミナーを開催しました。

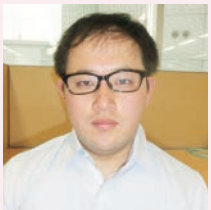
新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、今後の社会の在り方にさまざまな課題を提起しています。兵庫自治学会の令和3（2021）年度の年間研究テーマは「ポストコロナの新時代～持続可能な地域づくりに向けて～」です。

セミナーは、兵庫自治学会の山下淳代表運営委員（関西学院大学法学部教授）の開会あいさつで始まり、高木超・慶應義塾大学大学院政策メディア研究科特任助教から「SDGs×自治体!?～自治体におけるSDGsの活用について～」と題して、SDGsの基本的な考え方から自治体における活用方法までを分かりやすく解説していただき、講演の後には質疑応答も活発に行われました。



写真集・詩集・自費出版の
お問い合わせは
神戸新聞総合印刷
神戸新聞総合出版センター
https://www.kobenp-printing.co.jp/

南海トラフ地震に備える政策研究



主任研究員　吐合 大祐

1. 研究の目的

本研究会の目的は、南海トラフ地震に備えるための政策の在り方について、「国と社会」「被災社会」の双方の観点から検討し、具体的な復興像が浮かび上がるような、諸課題と政策の具体的な検討・提言を行うことです。南海トラフ地震の人的被害・経済被害をいかに軽減するか、災害発生後の早期復旧・復興をいかに達成するのか、被害を軽減するために取るべき政策とは何かなど、さまざまなテーマについて学術的に深く検討した上で、取るべきアクションプランについて「国と社会」「被災社会」の視点から提示することを研究会の課題として位置付けています。

2. 研究の内容と体制

研究会では以下3つの研究テーマを扱います。まず、「多様な災害シナリオ」研究では、中央防災会議が示す南海トラフ地震発生後の被害想定や、それを基にした課題シナリオをさまざまな観点から検証します。「社会システムのあり方」研究では、南海トラフ地震に備える政府、地方自治体、民間企業、財界、民間セクター（NPO・NGOなど）の対応策を調査・分析し、防災政策、復興政策に必要となる施策について提言します。3つ目の「災害リスク軽減と復興」研究では、個人や地域社会に関する災害の事前対応や、発災後の緊急・復旧・復興支援策をさまざまな観点から検討し、南海トラフ地震を見据えた防災・減災対策、地域の事前対応と事後対応のあるべき姿について提言を行います。

上記の問題関心について、さらに個別具体的に研究を進めるために、「災害シナリオ」「復興組織・体制」「官民連携」「災害リスクファイナンス」「個人とコミュニティ」「都市と住宅」の6つのテーマに分類し、それぞれのテーマに対応する部会・分科会を設置し、研究を進めています。6つの部会・分科会については、研究会発足の平成30（2018）年度から、防災、災害復興、行政、政治学分野の専門家を中心とする研究会方式で運営してきました。現在はコロナ禍の影響で研究活動に一定の制約があるものの、各部会・分科会において最終報告書の執筆に向けて調査や分析に活発に取り組んでいます。

3. これまでの研究活動

ここで、各部会・分科会のこれまでの取り組みについて簡単に紹介したいと思います。

まず災害シナリオ部会では、巨大地震発生に伴う「災害時の長期停電」にスポットを当て、地震に伴い発生する「長期停電」という災害シナリオが日本の社会や経済に与える影響を分析しています。具体的には、日本の送電網が抱える電力供給上のリスクとしての電力供給網の実態分析や、長期停電を発生させる要因の検討を進めています。またそれに関連して、長期停電の発生に伴う経済被害拡大についてのシミュレーション分析や、災害関連死等の人的被害拡大シナリオの検討にも取り組んでいます。

復興組織・体制分科会では、政治学の観点から、「南海トラフ地震に備える政府・地方自治体の連携体制」に焦点を当て、平時・非常時両方の中央政府・地方政府の連携体制やそれを支える制度の在り方について分析を進めています。具体的には、南海トラフ地震で大きな被害が予測される自治体を対象にヒアリングを行い、事前防災に関する最前線の取り組みや現体制に残された課題について調査・検討を進めています。

官民連携分科会では、「災害復興における民間アクターの機能性」に注目し、災害復旧・復興過程における企業やNPO・NGO、地域コミュニティ等が担う役割、また公的機関との関係性について考察しています。本研究会では、これまで、経団連に加盟する民間企業へのアンケート調査、大規模な被害が想定される兵庫県南あわじ市における官民連携体制の在り方の実地調査に取り組んでいます。

災害リスクファイナンス分科会では、経済学や公共政策の観点から、「南海トラフ地震からの復興に必要となる財政負担」に焦点を当て、定量的手法を用い、南海トラフ地震によって発生する経済被害額の推計、復興に必要となる政府・自治体の復興支出予算規模の推計に取り組んでいます。また海外で導入されている地震保険制度の調査を行い、南海トラフ地震に備えるための財政上の取り組みを検討した上で、取るべき対応策を議論しています。

個人とコミュニティ分科会では、個人やコミュニティのレジリエンス向上、被災者生活再建支援制度、発生前後の緊急・復旧・復興支援策の検討を行い、個人や被災地が受ける被害を最小限に抑えるための政策の提示を目指し、調査を行っています。具体的には、事前対応の一つである「避難行動要支援者への支援制度の構築」に注目し、単独では避難が困難な高齢者や障がい者の方々の安全確保のための仕組みづくりを検討しています。

最後に、都市と住宅分科会では、「災害発生後の都市・住宅の再建過程」に注目し、被災後の都市・住宅をめぐる多様な再建シナリオを理論的に検討した上で、それぞれのシナリオが街の復興にどう影響を及ぼすのかを定量的に検証します。その上で、「いかなる災害シナリオが被災地にとって望ましいか」についても検討を行い、南海トラフ地震からの復興のあるべき姿について議論を行っています。

このように各部会・分科会とも、さまざまな観点から調査・分析を進めています。

4. 最終報告書の執筆に向けて

本年度は研究の最終年度であり、各部会・分科会の研究成果を最終報告書に取りまとめる作業を進めています。最終報告書では、南海トラフ地震の発生に備え、国、自治体、民間アクターそれぞれが取るべき防災・復興政策について提言を行う予定です。

情報ひろば

研究戦略センター

「第6回貝原俊民美しい兵庫づくり賞（貝原賞）」の受賞者が決まりました

一般財団法人地域政策研究会（理事長 貝原俊也）は、元兵庫県知事の故貝原俊民氏（同研究会前理事長）が生前志した「美しい兵庫づくり」に寄与する有意義な活動を行い、今後一層の活躍が期待される個人や団体を対象に「貝原俊民美しい兵庫づくり賞（貝原賞）」を平成28（2016）年7月に創設しました。

本年度第6回の貝原賞には、団体16件、個人3件の応募や推薦があり、選考の結果、次のとおり受賞者が決まりました。

【表彰・受賞者】

▶団体

北須磨団地自治会

「防災防犯センター」の設置など、安全安心の住みよいまちづくりに向けた住環境の整備や福祉充実等に積極的に取り組む。他の自治会、地域活動の模範。

おのガーデニングボランティア

ひまわりの丘公園を中心に活動する、市内外の高齢者主体のボランティア。花を種から育てる育苗や配布、植栽・管理を行い、景観形成や色と香りのまちづくりに貢献。

▶個人

山崎 清治（NPO法人 生涯学習サポート兵庫理事長）

平成15（2003）年NPO法人を設立。多様な社会教育プログラム等の企画・運営を通して「結果」より「過程」の中で成長する大切さを伝える一方、他団体のアドバイザーなど子育て支援や青少年の健全育成に貢献。次代を担うリーダーとして期待。

※当機構は、この賞の推薦の募集と取りまとめ事務を受託しています

兵庫県こころのケアセンター

令和3年度第2期　こころのケア研修の受講者募集

こころのケアに携わる保健・医療・福祉・教育等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ研修を実施しています。

来年2月に実施する研修の受講者を募集しています。

●研修概要

区分	コース名	期　間	定員	対　象	受講料	申込締切日
専門研修	子ども達のいじめのケア－加害と被害の連鎖－【Web開催】	2月3日（木）	35人	教職員、スクールカウンセラー、教育委員会職員、こども家庭センター（児童相談所）職員、いじめ相談窓口の相談員、保育職員、児童福祉施設職員、司法関係職員	2,500円	12月9日（木）
	対人支援職のためのセルフケア【Web開催】	2月25日（金）	35人	保健・医療・福祉関係の対人支援業務従事者（保健師、ケースワーカー、各種相談員、福祉施設指導員等）、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等	2,500円	1月7日（金）

- 実施方法＝Web（Zoomで実施）
- 申し込み方法＝受講申込書（※）に必要事項を記入の上、郵送、Eメールで下記申し込み先へお送りください。申込者多数の場合は、各申込締め切り日を期限として、初めての受講の方を優先の上、抽選で受講者を決定します。

※当センターホームページからダウンロードできます

【申し込み・問い合わせ】

（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2（阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分）
TEL 078-200-3010　FAX 078-200-3017
Eメール kensyu@j-hits.org
https://www.j-hits.org/

HAT神戸　掲示板

兵庫県立美術館

特別展
「ライデン国立古代博物館所蔵　古代エジプト展」

大英博物館やルーヴル美術館などと並ぶ世界屈指の古代エジプト・コレクションを誇るオランダのライデン国立古代博物館の約25,000点にのぼる所蔵品から厳選した、ミイラや副葬品を含む約250点の展示品によって構成する展覧会です。近代人を魅了した遺跡発掘から、CTスキャンを駆使し、現代科学の粋によって解明されたミイラの生前の様子など、ライデン国立古代博物館の全面的な支援のもと、古代エジプト文明の魅力をさまざまな視点から紹介します。

■会　期＝11月20日(土)～2月27日(日)
※予約優先制(チケットの購入とは別に入場日時の事前予約をお願いします)
■観覧料＝一般1,800(1,600)円、大学生1,400(1,200)円、70歳以上900円、高校生以下無料
※(　)内は前売料金

◎休 館 日＝月曜日(ただし、1月10日(月・祝)は開館、翌11日(火)休館)および12月31日(金)、1月1日(土・祝)

◎開館時間＝10時～18時　※入場は閉館の30分前まで
※予約・展覧会についての詳細は展覧会公式サイト(https://egypt-leiden-kobe.com)にてご確認ください
◎予約・展覧会についての問い合わせ
TEL 078-262-1011

①

②

①《ホルの外棺》　後期王朝時代
(蓋)長さ199㎝、幅72㎝、高さ38㎝
②《パディコンスの『死者の書』》　第3中間期
縦24.5㎝、横61.2㎝

All images©Rijksmuseum van Oudheden(Leiden, the Netherlands)

JICA関西

◆食べることから始める国際協力！
JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。月替わりエスニック料理もご好評いただいております！12月のエスニック料理は「アルバニア」です。また、1月中旬から2月末までは「エジプト」料理をお届けします。お楽しみに！

写真は10月の世界遺産ミックス料理

月替わりエスニック料理の詳細と写真はこちら→
JICA関西食堂
https://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html

■営業時間＝(昼)11時半から14時まで(夜)17時半から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー
コロナの状況を踏まえて営業時間が変更になる可能性があります。
■定　休　日＝年中無休(年末年始を除く。)

(注)12月中旬から1月中旬に食堂の工事を予定しています。
詳しい休業日についてはJICA関西ホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

◎問い合わせ
JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課
TEL 078-261-0341　FAX 078-261-0342
Eメール jicaksic-event@jica.go.jp
その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック！
→ https://www.jica.go.jp/kansai/

日本赤十字社 兵庫県支部

「遺贈寄付」をご存じですか？

近年、「自分が築いた財産を社会のために役立てたい」「故人の遺産を社会に役立ててほしい」といった尊いお申し出が増えています。

相談される方のきっかけはさまざまですが、ひとり暮らしで相続先のない方が増えていることもあり、財産を寄付することへの関心が高まっています。

日本赤十字社兵庫県支部では、このような尊い想いに応えるために遺贈(遺言による寄付)、相続財産寄付を承っています。

詳しくはこちら ➡
https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/bequest/

◎問い合わせ
0120-078-456
赤十字　兵庫　検索

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

国際防災・人道支援協議会（DRA）活動報告会
～私たちはコロナにどう向き合うのか～

9月3日（金）、「私たちはコロナにどう向き合うのか」をテーマに、「国際防災・人道支援協議会（DRA）活動報告会」をYouTubeでライブ配信しました。

今回の報告会では、新型コロナウイルス感染症が世界に深刻な影響を及ぼす中、これから私たちがコロナにどう向き合えばよいのかを考える機会とするため、DRAの各構成団体による新型コロナウイルス感染症への取り組みを踏まえた最新の知見を広く県民に紹介しました。

冒頭、五百旗頭真・DRA会長があいさつし、「これまで新型コロナウイルス感染症により世界で約450万人が亡くなった。これは第二次世界大戦後の全ての災害を合わせた数より多い。こうした状況に対処していくには、専門分野にとらわれず、ネットワークで連携しなければならない。今回の活動報告会をコロナへの認識を持って対処する術を一緒に考える機会としたい」と述べました。

基調講演では、高鳥毛敏雄・人と防災未来センター上級研究員（関西大学社会安全学部教授）が「コロナが私たちに問いかけているもの」と題して、過去に世界で流行した感染症の事例や公衆衛生制度を紹介しながら、感染症対策は科学、医学、医療の力だけではなく、社会システムの確立が必要であると言及。また、健康と安全は、政府が与えてくれるものではなく、個人が決めるものであり、コロナへの対処に当たり、国民一人一人が当事者との意識を持つよう訴えました。

神戸赤十字病院の山下晴央院長は「神戸赤十字病院における新型コロナウイルス感染症対応」について、昨年度の院内感染の経験を踏まえ、その後は保健所と協力しながらさまざまな対応を行い、感染発生を抑えることができていると説明した上で、今後も可能な治療をしながら感染対策を続け、同時に病院・行政・国民が一体で対応していくよう呼び掛けました。

WHO健康開発総合研究センターの茅野龍馬医官は「新型コロナウイルス流行下における災害と保健医療」をテーマに、ワクチン接種や治療薬の開発における関係機関との調整などWHOの活動状況を説明しました。一方、保健医療セクターだけの取り組みでは限界があり、縦割りではなく全社会的アプローチの必要性を強調しました。今後について、ワクチン接種の8割近くをGDPの上位10カ国だけで占めるワクチンナショナリズムや公衆衛生対策の継続実施、変異株の流行による急激な医療需要の拡大への備えが課題との指摘がありました。

総括では、河田惠昭・DRA会長代行が、GDPの上位国ほどコロナ感染率が高いことに触れ、「感染症は科学の力だけでは解決できず、私たちの知恵で抑えていかなければならない。これからのコロナ対策をどうすべきなのか考える上で、私たちにヒントを与えてくれた」と振り返りました。

最後に河田会長代行から、来年1月26日（水）に「DRAフォーラム」を予定していることが伝えられ、今回の活動報告会を締めくくりました。

◆「国際防災・人道支援協議会（DRA）活動報告会～私たちはコロナにどう向き合うのか～」見逃し配信中です！

YouTubeで無料配信していますので、当日見逃された方も、ぜひご覧ください！
https://www.dri.ne.jp/useful/network/dra/live/live2021/ から、視聴できます。
※人と防災未来センターホームページからもリンクしています

全国がまだすドーム巡回展「1991雲仙普賢岳噴火災害を振り返る」を開催しました

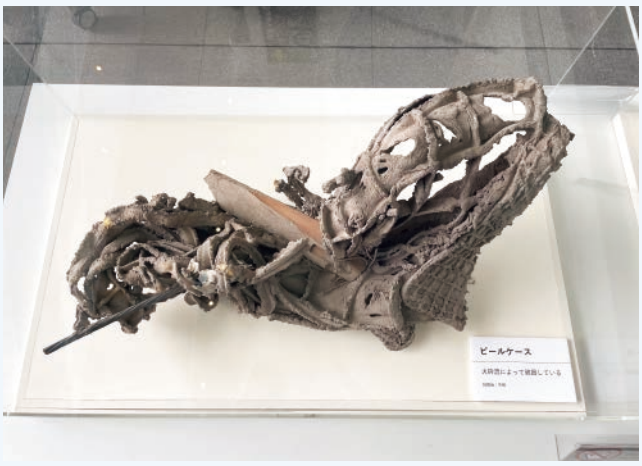
人と防災未来センターでは、9月7日（火）から26日（日）まで西館1階ロビーで企画展「1991雲仙普賢岳噴火災害を振り返る」を開催しました。

平成3（1991）年に長崎県島原半島で起きた雲仙普賢岳噴火災害から30年を迎え、災害の風化が進む中、改めて多くの人々にこの災害を知っていただく機会を設けることを目的として、雲仙普賢岳噴火災害の状況、噴火活動、支援活動の過程を、実際に被災した資料やパネルと共に紹介しました。来館の皆さまには改めて噴火災害について学んでいただく機会となったのではないでしょうか。

この企画展は、雲仙岳災害記念館（愛称：がまだすドーム）主催の全国巡回展で、最初に当センターで開催されました。今後の予定等については、がまだすドームホームページ（https://www.udmh.or.jp/）に掲載されています。

被災したカメラとレンズ、靴

巡回展のちらし



破損したビールケース

（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

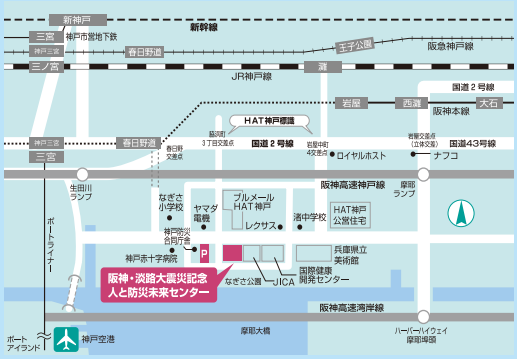
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
観覧案内・予約／TEL 078-262-5050 https://www.dri.ne.jp/

開館時間
9時30分～17時30分（入館は16時30分まで）
※7月～9月は9時30分～18時（入館は17時まで）
※金曜、土曜は9時30分～19時（入館は18時まで）

入館料金
大人：600円（450円） 大学生：450円（350円）
東館のみ観覧の場合
大人：300円（200円） 大学生：200円（150円）
高校生、中学生・小学生：無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※障がい者、70歳以上の高齢者割引有
※毎月17日は、入館無料
（17日が休館日の場合は、翌18日となります）

休館日
毎週月曜（月曜が祝日の場合は翌平日）、12月31日と1月1日
※ゴールデンウイーク期間中（4月29日から5月5日まで）は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通
鉄道 ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
・JR「灘」駅南口から徒歩12分
・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
バス ・三宮駅前から約15分
車 ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分



●有料駐車場あり ●バス待機所（予約制／無料）あり

人と防災未来センターニュース MIRAI

「HAT減災サマーフェス2021」を開催しました

人と防災未来センターでは、地元HAT神戸の街のにぎわいづくりと住民の皆さまの交流を目的として、平成28（2016）年度から毎年8月に「HAT減災サマーフェス」を開催してきました。例年は、屋外ひろばに楽しく遊べる体験ブースなどを設けて実施していましたが、本年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催となりました。

Part1「HAT輪（ハットリン）ピック！オンライン競技に挑戦しよう！」では、インターンシップの関西国際大学の学生さんたちに協力いただきながら、オンライン視聴者も気軽に参加できるペットボトルを使った競技等を実施。Part2「アマビエールちゃんと一緒にHAT探索＆コロナ退散」では、事前に公募した、コロナ禍で誕生した人と防災未来センターオリジナルキャラクター「アマビエールちゃん」の4コマ漫画を披露し、オリジナリティーあふれる作品を楽しみました。Part3「パフォーマンスでみんなの輪！うわさの投稿ムービーショー！」では、事前に動画投稿いただいた、住民の皆さまが普段行っているダンスや工作等さまざまな取り組みを配信。最後に、第三部の司会進行を行ったBloomWorksによるミニライブも行われ、オンライン配信で各家庭で楽しい時間を過ごし、HAT神戸で多彩な活動が行われていることを再認識していただく機会となりました。

アーカイブ映像は、YouTube（https://www.youtube.com/watch?v=fPBPT8nacvo）で配信しています。当日見逃した方、もう一度見たい方はぜひご覧ください。

Hem21 NEWS
vol.90
令和3年11月発行

（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2（人と防災未来センター）
https://www.hemri21.jp/

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

●研究戦略センター
▶研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593
▶学術交流部
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください